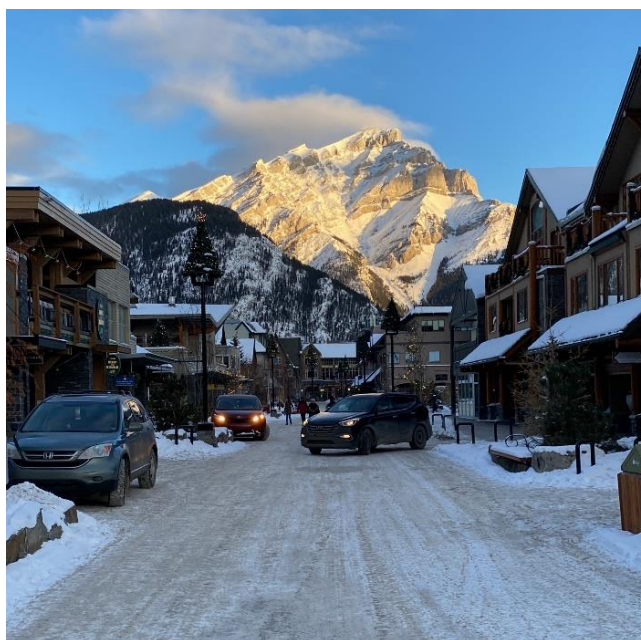




Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2023 SPRING 発行



外国留学中間レポート 2023 SPRING

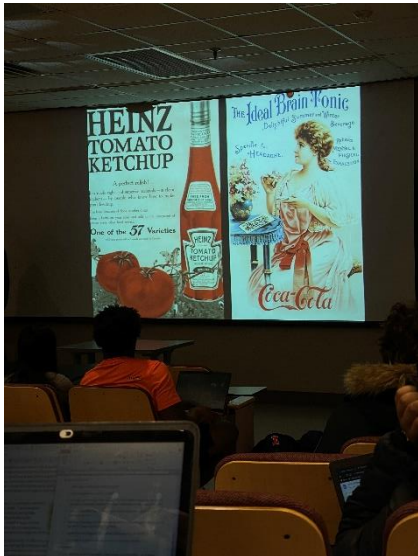
目次

イリノイ大学(アメリカ)	
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年.....	2
ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ(アメリカ)	
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年.....	3
ビクトリア大学(カナダ)	
マネジメント創造学部 マネジメントコース 4年.....	4
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年.....	5
文学部 英語英米文学科 3年.....	6
カールトン大学(カナダ)	
経営学部 経営学科 4年.....	7
文学部 英語英米文学科 3年.....	8
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年.....	9
リーズ大学(イギリス)	
経済学部 経済学科 3年.....	10
イーデス・コーワン大学(オーストラリア)	
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年.....	11
東義大学(韓国)	
経済学部 経済学科 4年.....	12

イリノイ大学（アメリカ）
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年8月～2023年5月

一年の留学期間も残すところ約二か月になりました。シャンペーンの冬は寒さが厳しいと覚悟していましたが、今年は例年よりはるかに過ごしやすい気温で、大雪が降った日は数日でした。最初は不安で慣れなかった寮生活や講義なども、周りの人に恵まれ、すっかりイリノイ大学の一員としてシャンペーンでの生活を楽しんでいます。

勉強面では、前期は心理学の講義のみ受講しました。そのため、後期は心理学以外にも興味のある分野を学ぼうと思い、心理学の講義2つに加えて、“広告の多様性”、“社会と環境問題”、“現代のレクリエーション・スポーツ・観光業”の講義を履修しています。これらの中で私が一番興味深いと感じる講義は、“広告の多様性”で



す。この講義では、主に広告や広告業における多様性の影響と文化的問題を学びます。例えば、昔のコカ・コーラやスプライトのCMを見て、どんな意図で登場する人種や音楽を決めているかなどを学びます。日本では学んだ事がない広告について多様性という観点から広告を学べることができたので、受講して良かったなと思います。また、実際のアメリカの講義を受けるにあたって一番驚いたことは、学生の積極性です。日本にいるときは、私も含めて他の学生が授業中に手を挙げて質問する場面をあまり見たことがありませんでした。ですが、イリノイ大学では、分からないと思ったら授業が終わってからではなく、その場で教授に質問をする学生が大半です。単位が取りやすいからと履修科目を決めるのではなく、この講義で自分の知識を深め、将来の選択肢や視野を広げたいという意思がある学生が多いからだと思います。

交友関係に関しては、11月に1週間ほどの秋休みがありました。この大学でできた友達が家に招いてくれたので、イリノイ州のブルーアイランドという町にホームステイに行きました。家では、グアテマラ出身の両親が、グアテマラの文化について教えてくれ、トルティーヤなどのメキシコ料理を振る舞ってくれました。また、友達と一緒にシカゴを観光したり、Thanksgiving dayを一緒に祝ったりして、充実した1週間を過ごすことができました。

時の流れは早く、長いと思っていた約10か月も瞬く間に過ぎ去ろうとしています。最後まで気を抜かず、自分の意志を強く持ち、成長したと胸を張って言えるように、残りの留学生活も有意義に過ごしたいです。



ハワイ大学リーワードコミュニティカレッジ（アメリカ）
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年
【奨励留学】留学期間：2022年8月～2023年5月

1年間の留学も残すところあと3ヶ月を切り、あっという間に過ぎていく時間への驚きとともに、もう少しでこの生活が終わることへの寂しさを感じています。現在は春学期の中間ということで、全てのクラスにも慣れてきました。今学期は、ハワイ神話、ハワイ語、ポリネシアンナビゲーションの授業、英語の授業（他の履修授業に必要なため）の4クラスをとっています。ハワイ語、英語のクラスは前学期からもう一つレベルアップしたクラスを受講しており、中には前期から同じクラスのクラスメイトもいるため、前の学期と比べさらに多くのコミュニケーションを他の学生と取ることができています。

ハワイ神話とポリネシアンナビゲーションは、秋学期に受講していたHawaiian studiesよりも専門的な授業です。ポリネシアンナビゲーションとは、地図やコンパスなどの道具を一切に使わずに、波や星、風、天気などの自然のみを使って航海する、ポリネシアで使われていた伝統的な航海方法です。この授業では、天体や天気に関することなど、より理科的で専門的な言葉も多く出てくるため、はじめは、ついていくことがとても大変でしたが、今は予習と復習を十分にすることで授業を十分に理解することができるようになり、毎回の授業をとても楽しんで受講することができています。

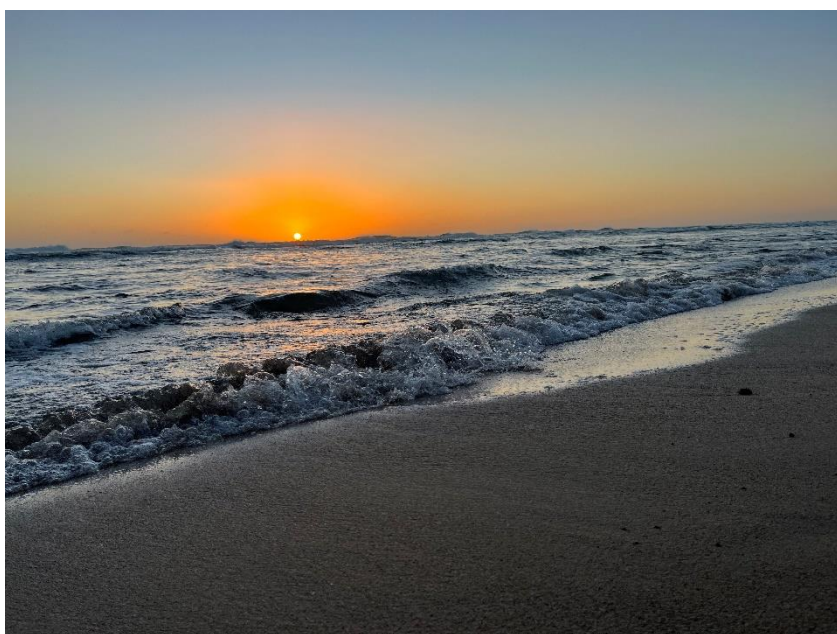
ハワイ神話の授業はライティング・インテンシブのため、ライティングとリーディングが特に多いです。神話を読み解きながら授業中にディスカッションを行い、ハワイアンの価値観について神話の観点から学んでいます。この授業は留学前から特に受けたいと思っていた授業なのですが、秋学期に学んだときは理解が難しかった異文化の価値観を理論づけて学ぶことができていたため、受講して本当によかったと思っています。

授業は月曜日から木曜日までの4日間で、週末は3日間も自由な時間があるため、フラのレッスンに加え、昨年宮殿でのグリーターと簡単な説明をするガイドのボランティアを始めました。ボランティアではこれまでクラスで学んできたことや、今学期また新たに学んでいることを訪問者の方々に伝える機会もあり、アウトプットの間を作ることができました。他にも、美術館や他の宮殿など、帰国までに思い残すことがないようにいろいろな場所を訪れています。特に美術館などに行くと、学校での学びを直に見て体験することができとても良い経験になっています。



冬休みはハワイ島を訪れました。来週から始まる1週間の春休みにはマウイ島に行く予定です。同じハワイでも島によって景色や環境などの変化があるので、また違ったハワイを見つけることが楽しみです。

あと少しの留学生活ですが、残りの1日1日も大切に過ごしていきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部 マネジメントコース 4年
【交換留学】留学期間：2022年8月～2023年4月

留学生活も残り約2ヶ月となり充実したカナダでの生活も終盤に差し掛かりました。8月からの留学生生活を振り返って初日の自分と今の自分を比較すると、言語力やアカデミック能力、また一人の大人として少しずつ階段を上っており、今までの努力と費やした時間は人生の中でかけがえのない経験になりました。

留学前は現地の学生と授業を受けしっかりと成績を残せるかどうかとても不安に思っていたのですが、特に後期は課題のこなし方や講義の受け方などにも慣れてきて気持ちにも少し余裕が出てきました。しかし現地で単位を取得するということは決して簡単ではなく、現地の学生と比べ2倍以上の時間を課題やテスト勉強に費やさなければなかなか同じ立ち位置に立つことは難しいと実感しました。取る授業にもよりますが、今学期に受講しているEnvironmental StudiesとGender Studiesはリーディングの量がとても多く、その上でディスカッションなどもあるため授業終了後はリーディングとディスカッションの準備で一日が終わってしまうことも多々あります。また、何度読んでも内容が理解できず、自分のリーディングスピードにも苛立ちを覚え次の日のディスカッションに対する不安な気持ちを抑えながら教室に足を運ぶ日も少なくはありません。



しかし私が諦めない、諦めることができない理由があります。それは7ヶ月間、培ってきた英語力や対話力を振り返りここまで成長してきた自分を思い返すことで、努力の成果が見え始めた今、諦めることはできず、自分を信じ前進するのみだという強い思いがあるからです。また今まで留学の準備をサポートしてくれた両親、大学の先生、そして友人の期待にもしっかりと応えるためでもあります。英語力や対話力の伸びはディスカッションやプレゼンテーション、エッセイ、クラスメイトやキャンパス外の人との会話など様々な所で実感させられます。現地の学生との友人作りは未だ、慣れない部分でもあり恐らく、留学生活の中で一番悩んだ所でもあります、今学期は各クラスに数人友人を作ることができました。

多くの学生は言語習得のために留学という道を選択するかもしれませんが、留学はそれ以上に人として成長する機会を数多く与えてくれ、個性を尊重する場へ踏み出すことにより本来の自分とは何か、どのような大人になりたいのかなど自分と向き合う時間が格段に増えます。また上下関係の文化がない分、様々なスキルや知識、経験を持った学生と交流する機会が多く増え、自分の人生の1ページにかけがえのない出会いを刻むことができました。



ビクトリア大学（カナダ）
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年8月～2023年4月

私は去年の8月に1年間の交換留学でカナダのビクトリアにきました。留学生活では楽しいこともあれば、壁にぶつかることも多々ありますが、日本では学べなかったことも、たくさんあります。留学生生活も残り2ヶ月となった今、このレポートで私が学んだこと、経験したことをこれから留学する人や留学を考えている人に伝えたいと思います。

語学学校

ビクトリア大学に入学する前に、語学学校に3週間通いました。語学学校のプログラムは月曜日～金曜日まで、課題も毎回必ずありました。毎日真面目に出席していれば授業内容は十分理解できます。全員で200人ほどでうち日本人は7割、韓国人が3割程度でした。韓国人のクラスメイトとは英語で積極的にコミュニケーションをとり、クラスメイトが帰国する際には、何人かにプレゼントをもらうまで仲を深めることができました。

ビクトリア大学の授業

9月からビクトリア大学での授業が始まりました。語学学校の時より、授業内容の難易度がかなり上がりました。特に一番難しかった言語学の授業では最初は全く理解できませんでした。英語が聞き取れなかったということもあり、授業についていくのに必死でした。幸運なことに、授業に使用されるスライド資料を事前にパソコンで見ることができたので、わからない単語を先に覚えていくという方法で予習しました。友達にも恵まれ、授業後は図書館で集まって、授業中に理解できなかった所を教えてもらい、助けられました。皆、切磋琢磨して頑張っていました。



最後に

ビクトリア大学に留学、または留学を考えている人に伝えたいことがあります。留学は楽しいこともあります但那だけではありません。まず、海外に行くと、言葉の壁もそうですが、なにより人種的なマイノリティ感を必ず感じると思います。その中で、言語、見た目、文化が違う人に声をかけるのは勇気が必要です。実際、ほとんどみんな同じ人種で固まっているイメージがありました。そこで私がやってよかったと思うことは、できるだけ多くの人に話しかけたことです。中にはあからさまに無視したり、あまり相手にしてくれない人もいました。日本では経験したことがなかったので辛かったです。しかし、自分に合う素敵な友達も必ず見つかります。そして、その友達を通して友達の輪がどんどん広がっていきます。留学期間というのは短いものなので、こういった行動を早めにして、勉強だけでなく、たくさんの経験をしてほしいです。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部 英語英米文学科 3年
【交換留学】留学期間：2022年8月～2023年4月

1年間の留学も残すところ2か月弱となりました。冬のビクトリアは特別寒くは感じませんが、昨年末に大雪が降りました。冬のビクトリアは生き物がほとんどいなくなり静かになりますが、イルミネーションを見ることができたりと、夏とは違った美しさがあります。

冬学期は授業についていくことにとても苦労しました。自分の専門科目の授業はある程度理解できるのですが、それ以外の科目は授業をほとんど理解できず、授業後にほぼ毎回教授に質問していました。また、予習しているのが前提で授業が進んでいくので予習すべきところを見ていなかったり、内容が理解できていないと全くと言っていいほど授業が理解できません。そのため、多くの学生が毎日図書館で夜遅くまで勉強しています。私のルームメイトたちも部屋にこもって勉強していることが多く、顔を全く合わない日も少なくありませんでした。



それでもルームメイトの都合がいい日は一緒に外出したり、ビデオゲームをしたりしていました。一度日本料理を作った時には美味しいと言ってもらえました。また、授業がない日は様々なイベントに参加してコミュニティを広げたり、英会話を練習したりしていました。大学が主催するイベントが多くあり、留学生向けのイベントも多くあるので、そこへ行けば様々な国の学生と交流することが出来ます。日本語を学んでいる学生もいるので、お互いの言語を教え合ったりも出来ます。冬休みには、日本語を学んでいるシンガポール人の友達とトロントへ旅行にも行きました。

春学期の授業はレポートを提出する形式の授業が多いので、週末はいつも大量のレポートに追われていますが、授業は冬学期の時よりも理解ができているように思います。授業内でのグループワークやディスカッションでも前よりも話せるようになりました。少しではありますが語学面でも成長を感じられることがあったので、残りの2か月も悔いのないように頑張ります。



カールトン大学（カナダ）
経営学部 経営学科 4年
【交換留学】留学期間：2022年9月～2023年4月

カナダでの留学生活も残り約1ヵ月となり、長かったようで短かった留学生活もそろそろ終盤戦を迎えました。留学当初は、自身の思い描いていたキラキラした留学生活とは異なり、勉強に追われる日々ギャップを感じていました。しかし、授業、ボランティア活動、寮での共同生活を通して様々な方と出会い、友達も自然とたくさんできるようになっていました。その中でも特に、ルームメイトの1人と親友のような関係性を築くことができ、毎日くだらない話を数時間したり、2人で出かけることで、拙かった私の英語力も徐々に上達していきました。

このような楽しい一面がありながらも、正直留学生活はしんどいことの方が多かったです。勉強の面では、3時間の授業に加え、膨大な量の課題が課されたので課題を終わらせることに必死でした。また、私の履修していた授業の教授は課題の出来を重要視する方が多かったので、課題を完璧に終わらせることに時間がかかってしまいました。現地ではreadingの課題が多いので、本を読むことにあまり慣れ親しんでいなかった私はreadingに時間を奪われてしまい、本を読む習慣をつけておくべきだったと後悔しました。授業の中では、グループディスカッションをほとんど毎回行うので留学当初は精神的に大変でした。周りの学生に比べて英語力だけでなく、知識や独創性も劣っていたので、会話に入ることが私にとっては難しかったです。

生活の面では、ルームメイトとの共同生活への適応には少し苦労しました。文化も価値観も全く異なっていたので、留学当初はストレスに感じていました。しかし、自分の考えをはっきりルームメイトに共有することで、揉めることなく楽しく共同生活することができました。食に関しては、自炊をしていたのですが、物価が高かったため結局安く収まる料理ばかり作ってしまい、栄養バランスに偏りが出てしまいました。ミールプランを選ぶべきだったと少し後悔もしたのですが、自炊は圧倒的に安く収まっていたのでその点で自炊を続けました。4回生からの留学ということもあり、就職活動との並行に現在も苦労しているのですが、残り1ヵ月後悔が残らないよう全力で楽しみたいと思います。



カールトン大学（カナダ）
文学部 英語英米文学科 3年
【交換留学】留学期間：2022年9月～2023年4月



新年も開け、あっという間に留学生活半年が経過しました。前半数か月は英語の上達の実感もない上、家族や友人が恋しく、なかなか新しい環境に慣れることができませんでした。ですが後半は心の余裕ができ、また違った生活を送ることができています。

授業に関しては、最初の数か月に比べると理解できることが増えリスニング能力の飛躍的な向上を感じています。そのおかげか、秋学期と比較し、冬学期は成績をいい状態を保つことができています。授業外では悩むくらいならやるということをモットーに、自分の行動力を生かしてできるだけ行動に移すように心がけるようにしています。

具体的には、カールトン大学の日本語のクラブが毎週開催している日本語の会話セッションのお手伝いをしています。私たちが英語を学ぶのと同じように、熱心に日本語を学ぶ現地学生が想像以上にたくさんいることが分かりました。そこであらゆる問題に立ち向かい、仲間と試行錯誤しどの方法がベストなのか、なにが効率化を妨げているのかを考え問題解決ができたうえ、自信にもつなげることができました。また、冬学期からは現地学生向けの日本語の授業に参加

しボランティアを行い、実際に日本語がどのように教えられているのか、ノンネイティブの学生にとってどのようなことが難しいのか、日本ではなかなか学べないことを吸収しています。

学校外でも、長期休みや時間があるときには旅行や予定を入れるようにしています。10月後半にはナイアガラの滝とトロント、12月にはカルガリーとバンフへ旅行に行きました。ナイアガラはアメリカとの国境にあるためアメリカっぽい雰囲気があり、カルガリーとバンフに関しては、オンタリオ州ではなくアルバータ州に位置しているため、同じカナダでもまた別の雰囲気がありました。とはいえ、島国の日本のように国境の内外での大きな違いというものはそれほどなく、陸続きの特徴を肌で感じることができました。

楽しい生活の中でも、出会いや別れもあり非常に充実している生活を送っています。常に人の大切さを考えながら、残り少ないカナダの生活を以前以上に充実させていきたいと思います。

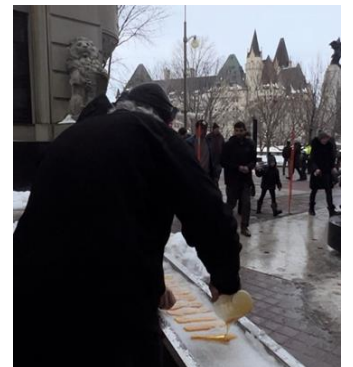


カールトン大学（カナダ）
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年
【交換留学】留学期間：2022年9月～2023年4月



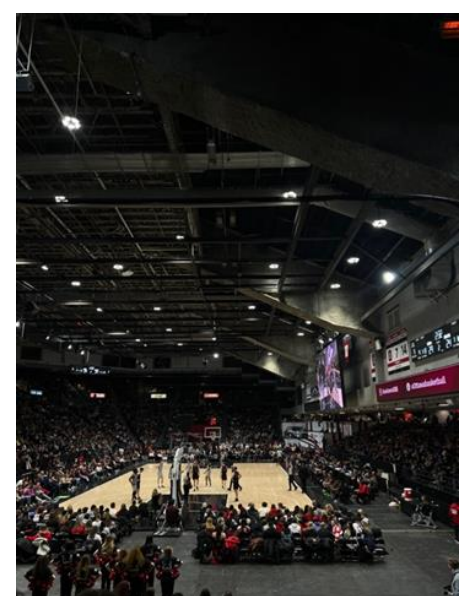
留学生活も残すところ約1ヶ月半となり、帰国し家族・友人に会えるという嬉しい気持ちの反面、周りの環境に恵まれ充実していたこの生活、留学を通してできた友人らとも、後少しで離れ離れになるという寂しさもあり、複雑な心境です。オタワでの生活は、気温と物価以外の面でとても満足しています。カナダの首都ということもあり、文化に恵まれており、多様です。そのため、私は留学当初から心配していたアジア人差別に遭うことなく、この留学生活を無事終了できそうです。現在は、最後まで後悔がないようにできるだけアクティブに、友人らと過ごす時間を大切に生活するという2点を意識して、留学生活を送っています。

オタワの冬は長く辛いものでした。マイナス10度を下回る日があることは日常茶飯事で、この気温に慣れるのには時間を要しました。しかし、慣れてしまえば、冬ならではのイベントごとを楽しめるようになります。オタワでは寒さを利用し、Maple Taffyと呼ばれるメープルシロップを雪の上で注いで固めて水飴状にしたカナダの伝統的なお菓子が出店されているマーケットが開催されたり、屋外のスケートリンクが設営されたりします。厳しい寒さですが、積極的に外出しオタワにいるからこそできることを多く経験しました。



学業面では、前期後期を通し音楽の授業を履修しています。後期も前期同様、講義型の授業を受けており、課題エッセイに追われています。私が受講している講義では、実際にコンサートに赴き、コンサートの内容を解説し、授業内容と課題リーディングに反映させレポートを作成するという面白い課題があり、楽しみながら学んでいます。課題の量は膨大ですが、この課題をこなすことで、自身の成長を感じられています。勉強量は日本にいた頃よりも圧倒的に増えたという自負があります。この留学を通し、コツコツ努力する・ひとつひとつのことを丁寧にやり遂げる力が鍛えられたと感じています。

国籍を超えた友人ができたことは、大きな糧になったと感じています。それぞれが持つバックグラウンドは違えども、共に生活を送り、学び、同じことを楽しみ、支え合う家族のような存在があることは私の留学生生活を豊かにしてくれました。積極性や感謝の気持ちや自分の感情をきちんと伝えること、相手を思っていると相手に伝わるように行動すること、相手のバックグラウンドを想像した上で発言することの大切さなどは、大学の講義ではなく対人関係で学びました。日々彼らから大きな刺激を受けています。残された留学生活では、吸収できることは全て吸収し、有意義に過ごせるよう、1日1日を大切に過ごしたいと考えています。



リーズ大学（イギリス）
経済学部 経済学科 3年
【交換留学】留学期間：2022年7月～2023年6月

留学生活も残すところ約2ヶ月となりました。寮のメンバーと非常に仲良くなることができ充実した毎日を送っています。入寮したての頃はネイティブスピーカーが多く、自分の英語力を思い知らされ大変落ち込みました。彼らが何を話しているのかは分かるのに、それに対する返答に時間がかかってしまい自己嫌悪の日々。日本にいる友人たちが非常に恋しくなり、夜な夜な電話をかけて気を紛らわせていました。しかしフラットメイト達はそんな私から離れるのではなく、積極的に外に遊びに行こう！と誘ってくれました。1ヶ月ほどで彼らとの対話も何不自由なくできるようになり、自身の成長を感じました。知り合いが1人もいない状態で、かつ第2言語で一から人間関係を築くのはかなり精神力が必要です。しかし留学をしていないと経験できなかったことなので、やはり留学に来てよかったなと思います。精神面でも飛躍的な成長ができたように感じます。

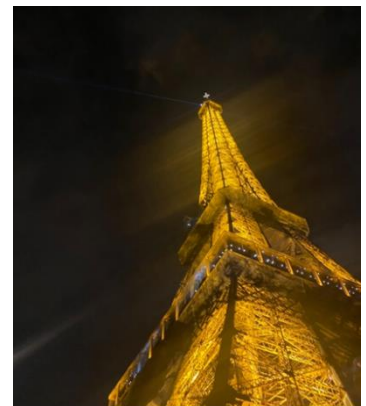


リーズの冬は午後4時に日が暮れ、1日の大半が夜であるように感じます。やはり大半の日が曇天ですが、却って晴天の日は雲ひとつないすっきりとした天候となるため気分が曇ることはあまりありません。また、リーズの人々は大変フレンドリーで、例えば通りすがりの人に「その服いいね！」とだけ伝えたりします。自分が良いと感じたものは相手に伝えるその姿勢に私は非常に感銘を受けました。

中間試験や中間エッセイを終え授業も後期に差し掛かり、時の流れの速さを実感しています。授業では講義中心のレクチャー、ディスカッション中心のセミナーがあります。セミナーは少人数のため積極的に発言しなければならず、初めはやはりかなり緊張しました。しかし求められているのは英語力ではなく何を話すかという内容であり、発言に正誤もないのだと気付いてからはディスカッションを楽しめるようになりました。

11月の後半には母が日本から訪れ、ロンドン、パリを旅行しました。電車を利用して約2時間でパリに訪れることができるのは、やはりイギリス留学ならではの利点だと思います。パリは同じヨーロッパといえどやはり異世界でした。街並み全体が情緒に溢れ非常に美しかったです。ロンドンやパリ以外にもヨークやバーミンガムに訪れました。ハリーポッターの世界そのもので、非常に感激しました。

残すところ後2ヶ月の留学生活も勉学に励み、友人と息抜きし、自身の知見を広げていければと思います。



イーデス・コーワン大学（オーストラリア）
マネジメント創造学部 マネジメント創造学科 2年
【語学プラス交換留学】留学期間：2022年10月～2023年6月

私はオーストラリア、パースにあるイーデス・コーワン大学に“語学プラス交換留学”制度で留学中です。前半の語学留学の授業は少人数クラスで毎日同じメンバーなので、高校の雰囲気に近いと感じました。また少人数なのでわからないことはすぐに質問でき、みんな間違えることを恐れずにたくさん発言するので日本のクラスよりも発言しやすいです。私はVISAが届かず、他の学生より1週間遅れて現地の授業に参加し、最初は何をすればいいのかわかりませんでした。クラスのみんなが助けてくれました。語学留学のクラスにはオーストラリア人はおらず、色々な国から来た留学生がおり、アクセントがかなり違うため同じ英語でも出身国によって聞き取りやすさがかなり違います。

また、語学プラス交換留学では前半はホームステイ、後半は寮で生活します。ホームステイは家庭によって様々ですが、私のホームステイ先には他にも2人留学生がおり、学校への行き方やオーストラリアで便利なアプリなどを教えてくれました。ホストファミリーやルームメイトたちがお出かけに誘ってくれるのでオーストラリアらしい体験をたくさんできました。



交換留学の授業は日本の授業よりも予習が大切です。授業内では説明よりも例を挙げて話すことが多いので予習していないと内容についていけません。またグループディスカッションの機会が多いのですぐに友達ができます。日本では誰も発言しないことがたまにありますが、ここではみんな積極的に発言するので楽しいディスカッションができます。また語学留学期間よりも自分で勉強する時間が多いのでタイムマネジメントが大切です。

私はオーストラリアに行ったことが無いからという理由で留学国を決めましたが、オーストラリアを選んで正解だと思います。留学前はオーストラリアの魅力と言えば自然豊かで動物が多いというイメージしかありませんでした。しかし実際現地で生活すると、オーストラリアの一番の魅力は“人”だと思いました。オーストラリアは多文化主義の国で、色々なバックグラウンドを持った人たちがいます。オーストラリアの人と話すことで様々な国の文化について知ることができます。

留学前はわからないことが多く、イレギュラーなトラブルが発生し、不安に思うことがたくさんありましたが、周りの人が助けてくれるので何とか毎日楽しく過ごせています。残り半分の留學生活、日々を大切に、楽しんで過ごします。



東義大学（韓国）
経済学部 経済学科 4年
【交換留学】留学期間：2023年2月～12月



私は高校生の時から韓国の文化や歴史に興味を持っていました。その影響で1年次から短期留学のプログラムなどに参加しましたが、それ以降はコロナウイルスの影響により、長期留学には行ける状況ではありませんでした。その空いた期間で、学内の韓国に関するほとんどの授業を受講し、「いつか行ける日が来る」そのいつかを待ち続け、準備してきました。私は卒業延期制度を利用して留学中であり、それと並行して就職活動もしています。とともしんどく辛い選択ではありましたが、自分がしたいことをできている状況にととても幸せに感じています。

現在、韓国に来て約1ヶ月と半分が経ちました。最初韓国にきて1週間は不安しかなく、わからないことばかりでした。そのような状況で実際に大学の授業についていき、現地の友達ができるのかと心配が凄く多かったですが、現在ではとても楽しい留学生活を送ることができています。そのために行ったことが2つあります。

1つ目は「とりあえず行動してみる」です。これはすごく簡単なことで何でも良いと思います。例えば、気になったご飯を調べて食べに行く、旅行してみる、気になった授業をとりあえず聞いてみる、などこれらを最初の3週間の内に行ったことで留学の充実度が明らかに増したと感じています。

2つ目は「現地の友達を作る」です。これは一つ目の行動することから成るものであり、私は現地の友達を作るために授業で知り合った人をご飯に誘ってみたり、大学の日本語学科の授業に行き、日本に興味がある学生と交流したりなど積極的に話しかけたり、できることはなにかと考えて行動しました。そのおかげで現在では複数の韓国人の友達と交流があります。

私は元々人見知りですが、留学に来たらそんなことは誰も知らないですし、誰も気に掛けてくれません。留学生活を充実させたいなら自分の殻を破ること、これに尽きると思います。

私にはまだ長い留学生活が残っています。もちろん現在以上に充実させたいと考えているので、これからも様々なことに積極的に挑戦していこうと思っています。

